参考資料３

議事概要

会議名称	第２回　千代田区都市計画審議会
日　　時	平成 30 年 10 月 9 日（火）10：00～12：00
場　　所	千代田区役所８階 区議会第１委員会室
会議次第	１．開会 ２．議題 【報告案件】 都市計画法（昭和 43 年法律第 100 号）第 18 条の２に規定する千代田区の「都市計画に関する基本的な方針（千代田区都市計画マスタープラン）」の改定について ３．その他 ４．閉会

＜議事概要＞

■（仮称）都市づくり白書について

・名称

○「都市づくり」という言葉は聞き慣れない（大串委員）

○「都市づくり」は硬いイメージ（寺沢委員）

○ 自分たちのまちを自分たちでつくるという意味では、「まちづくり」の方が良い（大串委員）

○ 風格や文化、コミュニティ等を包含するのであれば、「まちづくり」とした方が良い（寺沢委員）

○ 東京都では「都市づくり」としており、整合性を取るという考え方もある（林委員）

○ 夜間人口だけでなく、昼間人口、観光客等が集う場所であり、世界に通用するというコンセプトで運営していくという重みを持たせる意味では、「都市づくり」とした方が良い（細木委員）

⇒上記の意見を踏まえ、最終的に区で検討

・全体

○ 前書きとして、白書作成の立場や視点を明確にすべき（木村委員）

○ これからの 20 年間を考えるうえで重要な視点を示すことが大切（大串委員）

○ 名称を「○○づくり」とするからには、整備だけでなく、再生、維持・管理、運営、利用といった視点を取り込むべき（三友委員）

○ 白書の構成としてはよくまとまっているので、まちの魅力や価値を深く共有できるよう示した上で、関連データとの対応を分かりやすく整理すべき（柳沢委員）

○ 各データに対する検証の視点、見方を明確にすべき（木村委員）

○ SDGs のうち、気候変動や海・陸の豊かさ等、ゴール 11 以外のまちづくりを考えるうえで重要な課題も視野に入れる必要がある（寺沢委員）

・内容

○ 都市づくりの系譜において、東日本大震災には触れておくべき（保井委員）

○ 分野横断的整理の最初に、これからの都市づくりにおいてプライオリティの高い柱を明確に示せると良い（村木委員）

○ 分野横断的整理という考え方は良いが、整理しやすい項目と整理しにくい項目があり、再検討が必要（環境、防災、エネルギーは１つの項目にまとめて良いか等）（村木委員）

（分析のポイント・データ等）
自然地形（坂道等）
定住人口回復における具体的な課題（属性（新住民／旧住民）による分析等）
民間による開発の評価（地下鉄と地上の接続・ネットワークの実態と評価、歩道と公開空地の一体性等）
属性（居住者／オフィス／来街者）ごとの駐車場の利用実態
中小ビルが集中する地域における災害時の危険な状況（特に電力）
エネルギーをつくるという視点
地域別の気候変動やヒートアイランドの状況
自主防災組織の組織率、認知度、実働の状況
つながる緑やオープンスペースの実態・評価
機能更新の事例検証（制度の活用、行政の指導、建設後のチェック機能のあり方等）
視覚・聴覚障害者だけでなく、知的・精神障害者の視点

○ 容積率については、充足率を消化率に改めるべきではないか（柳沢委員）

・マネジメント

○ 各時点における事実を把握しておくことは大切であり、数年に一度、白書を更新していくことを検討すべき（岸井会長）

■その他

・区民参画

○ 資料４の参画プロセスの考え方では、都市計画審議会へ出席する市議会議員や区民委員の責任が非常に重くなってしまう等、デメリットが大きいのではないか（小林委員）

○ 区民参画が十分と言えるか検討が必要（小林委員）

以上